

韓国での日本語教育

テグ市における中学校・高校教師を対象とした

日本文化日本語会話研修の実践報告

倉持 香

要 旨

日常的にグローバル化という言葉を目にする今日、各国との交流活動が頻繁に行われるようになった。韓国と日本の間でも姉妹校等と連携し、ホームステイや文化体験が長期休暇を利用して行われている。交流を通して異文化を理解し、双方の言葉を学びあうことは、教育的効果の面でも大きく期待できる。しかし、従来の交流はどれも短期的交流であり、外国との関係に主眼を置きたいわゆるものが主流である。現在、テグ市には約 3 万人の外国人がいる。テグ市内での国際交流を活発にし、市内の国際交流を教育にどのように活かすかを考察することが本稿の目的である。そこで、テグ市国際理解教育センターの日本語教育教室で行われた中学校・高校教師を対象とした研修の中からテグ市の現状と問題、今後の目標をあげこれからの授業形態について考察を行った。

1. 国際理解教育センターと教師研修について

1.1 国際理解教育センターとは

韓国における市都教育庁、全国 16 ヶ所のうち国際理解教育センターがあるのはテグ市のみである。

2002 年度に情報センター(IT 関係、PC 研修、インターネット放送局、資料開発などを行い、会社や団体に提供する)が開設され、2004 年 12 月に国際理解教育センターが開設された。

テグ市の国際理解教育センターでは、様々な活動が行なわれている。以下、各活動について簡単に紹介する。

文化体験会話クラスは「世界市民育成」という市の目標から、英語、中国語、日本語のネイティブ講師による文化体験及び会話練習を無料で提供している。対象者は、中高校生であり、クラス 30 人まで参加することができる。また修了時間は 20 時間であり、修了証を受け取ると単位も取得できる。学生の父母の授業もある。

国際理解教育センターでは教師研修も行なわれている。この研修は 7、8 月中及び 1、2 月中に中学校・高校教師を対象としている。

上記以外の活動には、サマーキャンプ(英語クラスのみ)や中学校、高校の教室でのチーム・ティーチングの実施、企業等への派遣(日本語のみ)もある。

1.2 研修について

本稿で取り扱う国際理解教育センターにおける研修の概要は、以下の通りである。

<開催場所>

テグ市教育庁国際理解教育センター

<研修の目的>

相互の文化を理解し合いながら、生活会話能力の向上と日本語の授業のありかたについて考える。

<期間>

①1 月 2 日～13 日(この内 10 日間)。1 日 4 時間(9 時から 1 時まで)。

②1 月 16 日～27 日まで

<時間と内容>

9 時～10 時：ニュース(記事や動画を利用して)

10 時～12 時：その日のテーマについて概観、話し合い。

12 時～13 時：体験、会話

<研修内容>

1 日目：日本の紹介(人口統計、地理、季節、各地域の環境を見て、日本の体験記を紹介)

2 日目：着物(着物について確認し、浴衣の試着や着付け体験、ハンボクとの比較)

3 日目：挨拶状(日韓、それぞれの挨拶状についてみる。また 1 日目から 3 日目までの内

容を実際の授業でどのように取り入れていくか、話し合う。)

4 日目：年中行事（日本の主な年中行事について見ていき、韓国の年中行事と比較をする。）

5 日目：年中行事

6 日目：食べもの(日本の食について確認し、うめぼしや納豆を試食する)

7、8 日目：書道、茶道、俳句、能、音楽（琴、尺八、 雅楽など）を確認、書道や茶道を体験し、実際に音楽を聴く。

9 日目：宗教(結婚式や葬式など宗教に関連が深いものを確認)

10 日目：副教材について、修了式

<使用教材・資料>

日本語文法：多楽園『中級日本語フリートーカー』

日本事情：プリントを主に使用。随時、写真や日本のサイトも使用。使用した DVD は「日本各地域の旅行番組」。

教材研究に使用した資料：DVD「長靴をはいた猫」、CD「わらべうた・古謡」、「よいこのどうよう」、「歌から学ぶ日本語」

その他の使用資料：

国際日本語研究所編『しきたり』

『日本を知るための本』アルク

『今日は何の日か』講談社

『日本地図の楽しい読み方』河田書房新社

北見宗見『はじめての茶の湯－茶道の基本がよくわかる－』

『日本人礼儀作法読本』

『テグ中等日本語教育研究会誌』第7,8号

<教室の設備条件>

液晶(200×220)があり、必要に応じて写真や動画を見ながら授業を行い、各自にノート型パソコンの貸し出し、その場で使用することもできた。また、いすの移動が可能であり、授業にあわせて教室の形態を変えられた。

2. テグ市の現況（統計）

2.1 中学校・高校の総数と日本語教師数

韓国国内全体、ソウル市、テグ市における中学校、高校の総数と国立、公立などの内訳、及び中学校・高校における日本語教師数はそれぞれ以下の通りで

ある。

<全国>

中学校：総数 2935 校

(国立 9 校、公立 2267 校、私立 659 校)

高校：総数 2095 校

〔進学校：国立 12 校、公立 727 校、私立 643 校
商業校：国立 5 校、公立 412 校、私立 296 校〕

<ソウル市>

中学校：総数 363 校

(国立 2 校 公立 251 校 私立 110 校)

高校：総数 292 校

〔進学校：国立 2 校、公立 72 校、私立 140 校
商業校：国立 0 校、公立 19 校、私立 59 校〕

<テグ市>

中学校：総数 118 校

(国立 1 校、公立 83 校、私立 34 校)

高校：総数 85 校

〔進学校：国立 1 校、公立 26 校、私立 38 校
商業校：国立 0 校、公立 9 校、私立 11 校〕

<日本語教師>

総計 202 人（中学校 48 人、高校 151 人）

2.2 週授業時間

以下は、テグ市内の中学校、高校における日本語の週の授業時間数である。()内の数字は、今回の研修に参加した教師の人数を表している。

中学校 ・3年 1時間 2年 1時間(2)

・3年 2時間

・3年 1時間(2)

・1年 1時間

高校 ・3年 2時間 2年 2時間(2)

・3年 3時間 2年 3時間(2)

・2年 3時間(4)

・3年 文系) 3時間

・2年 文系) 3時間 理系)2時間

・3年 3時間

・2年 2時間(2)

2.3 教師研修制度

国際交流基金、韓国教育庁、日本文部科学省が主催する日本語教師の研修制度、及びそれぞれの概要

について概観する。

国際交流基金が主催する研修では、教授法、文法、会話、文化について学び、ホームステイ、観光、学校見学なども行っている。国際交流基金が行う研修の期間、参加条件は様々である。

まず、年に1度、6ヶ月あるいは9ヶ月間、埼玉県にあるセンターで行う研修がある。それぞれ約10人ずつが参加でき、35歳までの教師が参加可能である。また、夏休みを利用した1ヶ月間の研修もある。この研修の参加人数は、約40~45人であり、50歳までの教師が参加可能である。以上に加えて、各国から10人の教授や教師を選抜し、2ヶ月間の研修も行われている。この研修の参加者は、授業法や授業案などを提出し、合格した者である。

韓国教育庁が主催する研修には3種類ある。まず、5年前にケムン大学を借りて1日6時間、10日間の研修が行われた。また、10年前から領事館や大使館において研修が行なわれている。この研修の参加者は、先着順で決まり、約30人が参加できる。そして1ヶ月間にわたる日本での研修がある。ただし、これにも3年以上の教授経験と年齢が45歳までという参加条件がある。さらに10日間の日本での研修もある。これは年に1度行われ、30人ほど参加することができる。ただし、この研修の参加者選考にあたっては、授業発表大会などの成績が関係する。

日本文部科学省が主催する研修は、ユネスコで活躍する教師や高校生、教育庁の担当者、あるいは業績のある教師が参加可能である。今回、テグ市からは4人選抜された。この研修では、1年に約100人の教師が東南アジアから招かれ、2週間にわたり研修が行われる。

以上に加え、私立の学校では、約5年をサイクルに中学校・高校教師を対象に、年に5人ほど、4泊から6泊程度の研修を行っている。

またテグ日本語教育会でも5月にセミナーを開催している。

2.4 在韩国(テグ市)日本人数及び日本語教師数

テグ市に在住する日本人数、及び日本語教師数を以下に示す。参考として韓国南部の最大都市プサン市の日本人数、日本語教師数についても示す。

<テグ市>

テグ市人口 252万4253人 (2001)

在住外国人 約3万5千人 (2005)
 在住日本人 858人
 日本語教師(会話指導E2ビザ所有者) 33名
 (大学教授E1ビザ) 9名
 <プサン市>
 プサン市 381万2392人 (2001)
 在住外国人 約2万7千7百人 (2005)
 在住日本人 983人
 日本語教師(会話指導E2ビザ所有者) 58名
 (大学教授E1ビザ) 26名

2.5 姉妹都市との交流を中心とした国際交流の現況

テグ市の姉妹提携都市は8市、友好協力都市は5市である。

テグ市の姉妹提携都市は、米国・アトランタ市(1981年11月10日提携)、カザフスタン・アルマトイ市(1990年11月26日提携)、中国・青島市(1993年12月4日提携)、ブラジル・カイズジェライス州(1994年6月21日提携)、日本・広島市(1997年5月2日提携)、ロシア・サンクトペテルブルグ(1997年11月3日提携)、イタリア・ミラ(1998年12月14日提携)、ブルガリアのプロブディフ市(2002年10月14日提携)である。

姉妹提携都市との具体的な活動、交流の展望として、アルマトイ市、青島市、広島市を挙げる。

ウズベキスタンの首都アルマトイ市には韓国僑民7千人余りが住んでおり、韓国語の新聞『光来日報』、韓人劇団、高麗人文化センターなどを通じて民族の誇りを伝えている。

青島市には、テグの10余りの企業が進出しており、テグの「達句伐祝祭(달구벌축제)」と青島の「ビール祝祭」には、双方で芸術団を送っている。

広島市は、「国際平和、文化都市」を都市理念に世界中の都市との交流を推進している。これからテグ市の関連業界との協力強化など経済分野での活発な交流が見込まれる。

テグ市の友好協力都市は、中国・ニンポ市(2000年1月24日提携)、中国・シェンヤン市(2001年6月18日提携)、中国・ヤンチョウ市(2003年3月21日提携)、中国・エンジョウ市(2003年12月7日提携)、中国・ダナン市(2004年10月21日提携)である。

また、テグ市役所は、2003年度から姉妹都市、友好都市から大学生70名を招待している。

上記以外にテグ市内で行われている交流活動には、달구벌祭り（テグ市の祭り）、米軍基地での祭り（招待された者のみ、5月に一般人に開放）、文化センターでの催し（区ごとのセンターで語学教室）がある。この他に5泊6日韓国滞在プログラムもあり、ホームステイ、文化体験などが行われている。このプログラムの交通費は各自負担であるが、昨年は日本、中国、ベトナムから多数が参加した。さらに、年1度、テグ市在住外国人訳150人を対象に文化体験プログラムも催されている。この参加者は、10月中旬、ホームページ、大学で公募される。

3. 今回の研修参加者

3.1 参加教師の人数と専攻

今回、研修に参加した教師の人数と彼らの大学での専攻等を以下に示す。()内の主専攻は、日本語を表す。なお、日本語が副専攻だった日本語教師は、家庭、歴史、ドイツ語等が主専攻だった。

高校の教師 12名（主専攻9名、副専攻3名）

中学校の教師 8名（主専攻2名 副専攻6名）

3.2 授業について(人数や進度)

<中学校>

教科書：「こんにちは」

時間と人数：1週間に45分授業が1コマのみ
約30名

進度：教科書を6から7課まですすめ、試験の後や興味をひくために、映画、ビデオ、ビンゴ、ことば遊びのゲームなどを行っている。3年生の場合は期末のあと1ヶ月ぐらい時間がのこるのでその際に映画を見ることが多い。

<高校>

A) 普通校

①普通校（公立）

第2外国語：日本語、ドイツ語

教科書：대한교과서 I、II

時間と人数：3年生 週2時間、13クラス
(1×35名)日本語8クラス、ドイツ語5クラス
2年生 週3時間、13クラス
(1×35名)

進度：2年生) 10課まで

3年生) 残りⅡの始めまで

日本語教師：3名

(日本語専攻2名、時間講師1名)

②普通校（私立）

第2外国語：日本語、中国語（去年から始まり、3クラス開設された）

教科書：대한교과서 I

時間と人数：3年生 週3時間、17クラス（文系、経済系など7つに系がわかる）

2年生 週3時間、17クラス(1×約40名)

進度：2年生) 教科書を最後まで

3年生) 入試問題集

日本語教師：4名（全員日本語専攻であるが、今年から1、2名は中国語を習わなければならない）

③普通校（私立）

第2外国語：日本語、ドイツ語

教科書：블랙박스

時間と人数：2、3年生 週2時間、12クラス
(1×35名)

進度：2年生) 7課まで（動詞の「て形」程度）

3年生) 使役形ぐらいまで

日本語教師：3名（全員日本語が副専攻であり、主専攻はドイツ語だった。2年生に日本語、3年生にドイツ語を教える場合もある。）

④普通校（公立）

第2外国語：日本語、ドイツ語、フランス語

教科書：성안당 I、II

時間と人数：2年生 週3時間、13クラス(128～47名) 日本語9クラス ドイツ語3クラス

3年生 週2時間フランス語1クラス 今年から3年生は文系のみ

進度：2年生) Iを最後まで(何課かは割愛)

3年生) IIの5、6課まで

日本語教師：3名(全員日本語専攻であったが、1人は時間講師である。)

⑤普通校（私立）

第2外国語：日本語、中国語(2000年までドイツ語、2001年に日本語、2002年から日本語、中国語になる)

教科書：진명출판사 I
時間と人数：2年生) 文系 週3時間 5,6 クラス(1×35人)日本語・中国語半々
理系 週2時間 5,6 クラス(1×35人)
3年生)文系 週2時間 5 クラス(1×35人)

進度：2年生) 全部
3年生) I の復習と入試対策
日本語教師：2名(2名とも日本語が副専攻であり、主専攻はドイツ語である。一方中国語教師は専攻が漢文である。)

⑥普通校(公立)

第2外国語：日本語、中国語(2002年から中国語も加わった。)

教科書：대한교과서 I、II
時間と人数：2年生) 全員 週3時間 14クラス(1×35人) 理系3クラス 文系11クラス 日本語10クラス
3年生) 文系のみ 週2時間 12クラス(1×35人) 文系7クラス(漢文3クラス中国語1クラス)

進度：2年生) 10課まで
3年生) IIと入試対策
日本語教師：2名(日本語が専攻であった。一方、中国語教師の専攻はコンピューターであった。)

⑦普通校(公立)

第2外国語：日本語、中国語
教科書：대한교과서 I、II
時間と人数：2、3年生) 週3時間 6クラス(1×35人) 文系5クラス 理系1クラス 日本語5クラス 中国語1クラス

進度：2年生) I 全部
3年生) II途中まで
日本語教師：2名(日本語専攻。)

B) 商業高校

①商業校(私立)
教科書：대한교과서 I
時間と人数：2年生) 週3時間 10クラス(1×35人)

進度：6、7課ぐらいまで(ひらがなにも1ヶ月かかり、レベル差も大きい)
日本語教師：2名(日本語専攻が1名、日本語副専攻で、主専攻ドイツ語が1名。)

②商業校(私立)

教科書：진명출판사 I
時間と人数：2年生) 週3時間 15クラス(1×35人)
進度：最後まで(12課、動詞の「て形」程度)
日本語教師：3名(全員日本語専攻である。週12時間 1名は6時間、自習監督)

③商業校(公立)

教科書：성안당 1のみ
時間と人数：2年生) 週3時間 14クラス(1×35人)
進度：12課までの教科書であるが6課ぐらいの簡単な動詞文まで。
日本語教師：3名(全員日本語専攻であるが、1名は時間講師で韓国漢字も同時に教える。)

④商業校(公立)

教科書：성안당 1のみ
時間と人数：2年生) 週3時間 12クラス(1×35人)
進度：7、8課ぐらいまで(週のうち2時間は教科書、1時間は他の内容)
日本語教師：2名(日本語専攻である。)

⑤商業校(私立)

教科書：성안당 1のみ
時間と人数：2、3年生) 週2時間 11クラス(1×35人)
進度：教科書1/3ぐらいまで
日本語教師：2名(日本語専攻)

3.3 中学校・高校における問題点

韓国の中学校、高校における日本語教育の問題点として以下の8点を挙げる。

- 1) ソウル大学、延世大学、高麗大学の特定の学科で日本語は必須であるが、その他の大学では英語が入試科目である。
- 2) 普通校は成績が標準化されている一方で、商

業校はレベルの格差が大きい。

- 3) 理系の学生の意欲が低い。
- 4) 普通校では入試に重点を置き、商業校では単位獲得に重点を置いた授業が行われる傾向がある。
- 5) 第2外国語の授業がドイツ語、フランス語から日本語、中国語に移行しているため、副専攻教師が増加している。
- 6) 日本語が副専攻であった教師が多いため、日本事情や日本文化についての知識に乏しい。
- 7) 中国語教師の不足によって、日本語教師に中国語研修を受けさせ中国語授業をさせる場合があるため、日本語教師への負担が大きい。
- 8) テキストを重視した授業が多く、副教材を使った授業は極一部の教師に限られている。

4. 研修を振り返って

研修についてアンケート調査した結果、研修のあり方、学校での授業のあり方と問題点等について以下のような考え、感想が見受けられた。

- 1) 日本について興味、関心はあるけれども知識が浅く、固定観念や先入観で日本をみている教師が多い。
- 2) 副専攻の教師が多く、教材研究において教師の精神的な負担が多い。特に中学校教師の場合、これが顕著である。
- 3) 今回の研修で書道や茶道、食、音楽、スポーツ、伝統芸能等、幅広い分野を直接、体験し参加者同士が話し合うことで、韓国と比較しながら、教師1人1人が新たに指導への意欲がもてた。
- 4) 教師間にレベル差があり、今後の研修にあたってはクラス分けが必要になる。
- 5) 普段の授業では、教科書だけを使った授業、

あるいは入試対策という大学入試のための日本語といった雰囲気があり、高校においては、入試に必要ないという理由から日本語を選択しない者が多い。

- 6) 教師の勉強会や研修、テグ市内での外国人との交流活動などが活発ではない。
- 7) 第2外国語に中国語をいれる学校が増えつつあり、日本語教師が中国語の研修を受けさせられることも多い。

5. 今後の中学校・高校で求められること

研修、中学校、高校における日本語教育の問題点から今後の中学校、高校の日本語教育で求められることとして、以下の4点を挙げる。

- 1) 「これからの授業はどうあるべきか」を「世界の流れや動向、それにとまなう言語教育」とともに考えることが求められる。
- 2) 学校独自の教育ではなく、生徒のニーズに合わせた目的別授業カリキュラムを設定することが求められる。具体的には、進学校における入試対策としての日本語とは別に隣国共生としての言語教育意識へと改善していくことが考えられる。また、商業校においては、職種に合わせた日本語会話や学生の希望を考慮した授業内容が求められるだろう。
- 3) 2)とも関連するが、進学校と商業校の日本語授業を区分し、会話を中心とした教科書作成が求められる。
- 4) 日本人教師とのチーム・ティーチングの授業を極力多くもつ必要がある。具体的には、在住の日本人にボランティアとして授業に入ってもらい、交流の場を作ることなどが挙げられる。

くらもち かおる／同徳女子大学大学院
mochi_27@hotmail.com

稿末資料1

アンケート調査結果

1. 内容について

1日目 (日本について及び各地域紹介)

- ・地図をみながらの授業で良かった。
- ・各県についてより詳しい説明があったらもっと良かった。

- ・資料も説明もよかった。 ・PCで地図を見ながらしたらもっといい。
- ・地域についてもっといろいろな資料と地図など知りたい。
- ・サイトで見られて良かった。 ・韓国にない歴史文化遺産を見られて良かった。
- ・日本旅行経験を再度確認できた。

2日目 (着物について及び浴衣試着体験)

- ・実際に着てみて良かった。授業で準備がどれだけ大切かわかった。
- ・初めての体験だった。 ・着方を習えて良かった。
- ・とても良かった。 ・授業でしてみたい。 ・着物に親近感をおぼえた。
- ・本物の着物が着てみたくなった。

3日目 (慣習)

- ・いろいろな物が見れて良かった。 ・分からなかったことがわかって良かった。
- ・実際に挨拶状を書いて発表しても良かった。 ・いろいろな見本が見れたら良かった。
- ・今度は年賀状を書いてみたくなった。

4,5日目 (年中行事)

- ・資料が多いので勉強になった。 ・生徒も興味深い分野なのでとても良い時間だった。
- ・サイトでの説明と写真がとても良かった。 ・お祭りがとても多く、子供たちのための行事が多い。

6日目 (食)

- ・あまり好きではないが実際食べて見てよい体験になった。
- ・納豆を始めて食べて良かった。今度、機会があったら日本人がよく食べるものを食べてみたい。
- ・今度機会があったら和食について深く知りたい。

7,8日目 (作法)

- ・茶道も書道もとてもよい体験だった。授業でとりいれてみたい。
- ・直接目でみて食べたので本当に良かった。日本の作法は難しい感じをうけた。

9日目 (宗教)

- ・結婚式のビデオなどみれたらいい。天皇の式典などみてみたい。
- ・いろいろわかって生徒にも説明しやすい。

10日目 (まとめ)

- ・直接、百人一首ができて楽しかった。 ・紹介してもらったゲームなど授業に取り入れたい。
- ・かるたについてよくわかったし直接できて楽しかった。
- ・いろいろなゲームや教材などがわかって授業でぜひ活用していきたい。

その他

- ・先生の日本の生活の話がとても楽しかった。
- ・研修前にこんな機会があったらとても役にたつと思った。
- ・遊び半分の授業はとても楽しく頭に簡単に入っていくからいいですね。
- ・教える熱意がまたわいてきた。
- ・今後頑張って指導していきたい。
- ・レベルをわけてくれたらうれしい。
- ・新聞のコピーやニュースをPCでみながら翻訳の練習もできてよかった。
- ・もっと多く、時間も長くしてもらいたい。

2. 研修について

時期

(とても良い 良い 良くない 悪い)

13

7

場所

(とても良い	良い	良くない	悪い)
12	7	1	

理由・・・暖房がうるさい

時間

(とても良い	良い	良くない	悪い)
12	7	1	

人数

(とても良い	良い	良くない	悪い)
13	7		

今後も参加したいですか。

(とてもしたい	したい	あまりしたくない	したくない)
15	5		